

## 待降節第2主日

マルコ 1・1 - 8

2017.12.10 高円寺教会 9:30 ミサ  
クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

勉強ができて外国語も良く話せるというのが多くの人の司祭に対するイメージのようです。そのため私が司祭だということで、はじめてお会いした人たちは、私に対して勉強ができ、また外国語ができるという先入観を持っておられるようです。しかし実のところ、勉強もできず外国語もできません。でも司祭をさせていただいています。

司祭になるまで12年かかりましたが、その間様々な人たちから「あんたは勉強できないのだから努力するように」と言われました。「あんなバカな人が神父になってもいいのですか」と言われたこともあります。おかげ様で分かったことは、「努力してもできないことってある」ということです。

そして、残念なことにもうまくいかないことがあると、「自分の努力が足りないからだ」と自分を責める癖もついてしまいました。お説教やお話を考えるときもそんな調子です。机の前に座っていても全然出てきません。悪い癖で「これは自分の努力が足りないからだ」と自分を責めてしまいます。このような調子で、昨日も責めていたのですが、もちろん説教は出てきません。仕方がないから、「もう風呂にでも入ろう」と、湯船に浸かりながら考え始めました。

昨年(2017年)、将棋のトップ棋士を倒してしまうようなすごいコンピューター(AI)が出てきたことが話題になりました。強さの秘密は、人間の棋士は一生かけて勝負したことを蓄積するのですが、コンピューターは人間の棋士の2000年分くらいの対戦を積み重ね、演算しているとのこと。それだけの経験をした上で人間の棋士との勝負に臨むから、とてもじゃないけど人間は勝てないそうです。そういうことを考えながら、「そもそも努力してコンピューターに勝つ必要があるのかなあ…」と考えました。例えるなら、ブルドーザーと力競べをして勝とうと努力するようなものです。勝てなくてもいいんじゃないかと思います。「できないことを無理しなくても大丈夫」だと考えると、少し楽になりました。

昔のある人々は、努力をしてこの世界で結果を出すことで神になろうと考えていた。2300年前のギリシャのアレキサンダー大王(彼はマケドニア人でしたが)は「神の子ども」と呼ばれていました。後の皇帝たちも「我こそは神の子」と宣言するようになります。イエスの時代のアウグストゥスというローマ皇帝も自分のことを「神の子」と呼ばせていました。銀貨に彼の肖像があることも聖書に書かれています。イエスが「この肖像と銘は誰のものか」と質問

した銀貨には「神の子アウグストゥス」とありました。

しかし、この世で神になるためには、人々が神様だと認めなければ神様になれない。これが限界です。そして実際には神様ではなく単なる人間です。

日本では、かつて天皇という人が神様でした。戦前は、神である天皇に対して尊敬しなければ大変なことになりました。

荒れ野で厳しい生活をした洗礼者ヨハネは、「自分は努力しているから神の子だ」と言わなかった人です。それから「自分よりもすごい人が後から来る」と言います。また「人間の力を超える、人間の努力を超える聖霊を受け入れる」ことの重要性を語ります。彼は努力して頑張っている人なのですが、そんなことは聖霊の働きに比べたらたいしたことではないと教えてくれます。

私たちは聖霊によって洗礼を受けました。私たちの努力が認められたから受ける資格がある、ということではありません。こうして、私たちは自分の努力にすぎるのではなく、人の努力を超える神様に自分を委ねることを決断いたしました。でも人は弱いので、日曜日にみんなで共に集まってそのことを思い起こします。

一週間のうちの6日間は、自分の努力で頑張らないとやっていけないってことをたたき込まれます。ですから一週間のうちのこの1日は、人間の努力には限界があって、人間の努力で人を救うことは無理なのだから、神様に委ねて生きることを改めて思い起こします。

洗礼者ヨハネが勧める回心というのは、自分の努力という人間の力に頼るのではなくって、神様の救いに委ねることです。神様よりも人間の力や努力により頼み、自分を救おうとしてかえってダメになるのは、昔も今も変わりません。アメリカの大統領のトランプさんという人はそんな感じですが、それに張り合っているリトルロケットマンもそんな感じですが、自分の努力で自分を救おうと思うときに、命に対する危機が迫ってきます。

かつて、努力によってこの世で最も強い超人になって、人間が神の代わりになるべきだと考えたニーチェさんの考えを実行したヒトラーはたくさんのユダヤ人を殺しました。「こんな人たちが努力しても劣勢な遺伝子しか持っていないのだから、この人たちは生きるに値しない」と考えました。

努力ができない人は生きるに値しないという、人の生命を粗雑にするような考え方に陥る危険性は誰にでもあります。わたし自身もそうなる可能性があります。努力できないことで自分を責めること、また自分の努力の成果から他の人を責めることから命を滅ぼす可能性が生じます。

今日も洗礼者ヨハネは回心を私たちに向って呼びかけている。神様の救いは、人間の努力によらず、努力もできないくらい苦しんでいる人のもとに必ずやってくることを待ち望み、救いがやってきたときにそれを受け入れることができますように、共に祈りましょう。